

税理士・田中誠のつぶやき

尺貫法の「坪」って何？

長さに尺、質量に貫を使った日本固有の単位系

日本で昔から使用されている単位は「尺貫法」と言い、こちらは長さの単位が「尺」、重さの単位が「貫」で表わされます。1尺は約30.3センチで、古来の日本家屋の扉や壁などの基準は全てこの尺貫法が使用されてきました。メートル法の普及により法律上は昭和34年からは廃止されているにもかかわらず、しぶとく生きのびている単位で、日本家屋を建てる際には、いまでも尺(寸)を基準とした曲尺がメートル目盛りのスケールと併用して使われています。不動産の業界ではおそらく「坪」はメートル法以上に使われているでしょう。例えば、「宅地分譲したいが50坪で何区画とれるか。」「1坪当たり20万円で売買したい。」「測量したら何坪あったか。」等々。

| 尺貫法の面積の単位 | | メートル法 | 計算式 |
|-----------|----------------|---|-----------------------------|
| 1町/1町歩 | 10段(反)=3000歩 | $\div 1 \text{ ha} (10,000 \text{ m}^2) = 9917.35537 \text{ m}^2$ | $1,200,000/121 \text{ m}^2$ |
| 1段(反) | 10畝=300歩 | $\div 10\text{a} (1,000 \text{ m}^2) = 991.735537 \text{ m}^2$ | $120,000/121 \text{ m}^2$ |
| 1畝(せ) | 30歩 | $\div 1\text{a} (100 \text{ m}^2) = 99.1735537 \text{ m}^2$ | $12,000/121 \text{ m}^2$ |
| 1坪/1歩(ぶ) | 10合=6尺平方=1間×1間 | 3.30578512 m^2 | $\div 400/121 \text{ m}^2$ |
| 1合(ごう) | 10勺 | 0.330578512 m^2 | $40/121 \text{ m}^2$ |
| 1勺(しゃく) | | 0.0330578512 m^2 | $4/121 \text{ m}^2$ |

尺貫法の単位から平方メートルへの登記簿の換算について

土地又は建物に関する計量については、昭和41年3月31日までは尺貫法による計量単位を用いてきたが、昭和41年4月1日以後は、すべて平方メートル(m²)による計量単位を用いなければならなくなりました。これは昭和41年3月1日民事甲第279号民事局長通達に基づき、1万坪未満は換算表を作り平方メートルに換算するようにしましたが、換算率は1万坪未満については、1坪を3.30578512 m²とし、1万坪以上については1坪を121分の400 m²としました。

1坪は約3.3 m²、換算する時は0.3025を使う

畝・反・町の値は1アール・10アール・1ヘクタールの値に非常に近いので、面積の単位についてはメートル法への移行はスムーズに行われました。ただし、坪(歩)だけはメートル法では切りの良い数字で表すことができなかったため、不動産登記の表記においては、メートル法による面積に坪を併記して良いこととされています。また、1坪の面積は一般的に2畳の広さに当たります。

1尺 = (10/33)メートルと定められたので、1坪 = (10/33 × 6)² m² = 400/121 m² = 約3.305785124 m²となり、400/121の逆数は、121/400であるので、正確には1 m² = 0.3025坪となります。

計算式

実務では単純に、0.3025の数字を使って平方メートルから坪へ、坪から平方メートルへの換算をします。

$$\text{m}^2 \times 0.3025 = \text{坪}$$

$$\text{坪} \div 0.3025 = \text{m}^2$$

$$1 \text{ 尺} = 10/33 \text{ m}$$

$$1 \text{ 間} = 6 \text{ 尺} = 60/33 \text{ m}$$

$$1 \text{ 坪} = 6 \text{ 尺平方} = 60/33 \times 60/33 \text{ m}^2$$

$$= 3600/1089 \text{ m}^2$$

$$= 400/121 \text{ m}^2$$

$$1 \text{ m}^2 = 121/400 \text{ 坪}$$

$$= 0.3025 \text{ 坪}$$